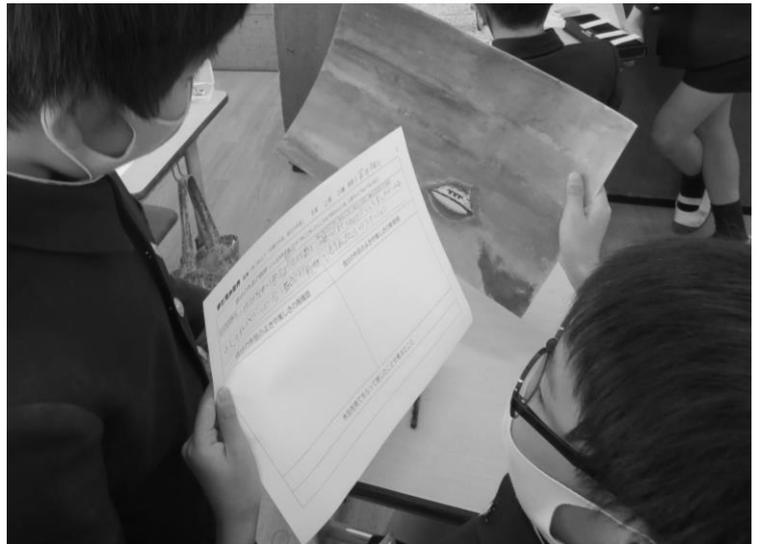


子どもが学びをつなぐ図画工作科学習

図画工作科

二宮 優子
郷田 良太郎



研究テーマについて

1 深い学びのある授業のなかで見えてきた子どもの姿

図画工作科研究部では、「ぼくだから、わたしだからつくりだせるものを探求する子どもの育成」をテーマに、子どもが造形的な見方・考え方を働かせながら、自分にとっての意味や価値をつくりだしていく姿をめざしてきた。そこで見えてきた子どもの姿は以下のとおりである。

- 題材で扱う材料の特徴に気付かせたことで、子どもは、材料を形や色、質感等の造形的な視点で捉えることができた。
- 材料を造形的な視点で捉えさせることが、発想や構想の手掛かりとなり、子どもは、表し方を工夫し自分にとっての意味や価値をつくりだすことができた。
- 活動の場を工夫し、仲間同士の交流が生まれるようにしたことで、子どもは、自分以外の仲間の見方や感じ方にふれ、自分の作品に生かすことができた。
- つくりだした作品のよさや美しさについて、感じ取ったり考えたりするための手立てを講じることで、自分の見方や感じ方を深め、生活や社会のなかの形や色等と豊かにかかわる姿をめざしたい。

2 学びをつなぐ姿

子どもには本来、見たり感じたりする力、次にどのような形や色にするかを考える力、それを実現するために用具や表し方を工夫する力、一度つくったものを改めて見て、新たなものをつくりだそうとする力等の造形的な資質・能力が備わっている。その資質・能力を引き出し、一層伸ばすために「子どもが学びをつなぐ学習指導」を展開していく。図画工作科研究部では、「学びをつなぐ姿」を次のように整理した。

- これまでの学びや生活経験、授業で学んだ新たな視点を基に、対象を多面的・多角的に捉える姿（これまでの学びを生かす）
- 自分や仲間の作品を比較して見ることで得た発想や構想のヒントも参考にしながら、自分にとっての意味や価値をつくりだしている姿（仲間の考えを生かす）
- 自分や仲間の作品のよさや美しさについて感じ取ったり考えたりし、よさや美しさを感じた理由を伝える姿（日常生活とつなぐ）

総合的な学習の時間や生活科及び特別活動とかかわる資質・能力について

対象を多面的・多角的に捉えたり、自分や仲間の作品を比較したりしながら、知識及び技能を自在に駆使し、発想や構想を繰り返すなかで、自分にとっての意味や価値をつくりだしていく姿は、総合的な学習の時間でめざす探究的な学習や、思考と表現を繰り返しながら思いを実現していく生活科の学習とかかわりがある。また、子ども一人一人が、自分の作品のよさや美しさの理由を伝え、自分の見方や感じ方を深める姿は、特別活動でめざす、自己のよさや可能性を発揮し自己実現を図ろうとする態度の育成とかかわりがある。

研究内容

- 1 自分だからできる発想や構想を生み出す工夫
 - (1) 「生み出す」段階における題材との出合わせ方の工夫
 - (2) 「挑む」段階（製作途中）における自分や仲間の作品の鑑賞のさせ方の工夫
- 2 自分の作品のよさや美しさを捉えさせる工夫
 - (1) 「生かす」段階における自分や仲間の作品の鑑賞のさせ方の工夫

研究内容の基本的な考え方

子どもが生活や社会のなかの形や色等と豊かにかかわるようになるために、授業においては、次の2つについて研究を進めることで、子どもが学びをつなぎながら、自分の見方や感じ方を深めていく姿をめざしたい。

1 自分だからできる発想や構想を生み出す工夫

自分にとっての意味や価値をつくりだすためには、自分だからできる発想や構想をすることが欠かせない。研究内容1では、子どもに発想や構想をさせることに焦点を当てる。

(1) 「生み出す」段階における題材との出合わせ方の工夫

「生み出す」段階における学習活動の手順を工夫し、その題材だからできる表現について、造形的な視点を基に多面的・多角的に捉えさせることで、自分ならではの発想や構想を生み出すことができるようにする。

(2) 「挑む」段階（製作途中）における自分や仲間の作品の鑑賞のさせ方の工夫

製作途中の作品を比較させる鑑賞の活動を設定することで、発想や構想の手掛かりを得られるようにする。

2 自分の作品のよさや美しさを捉えさせる工夫

自分の作品のよさや美しさを様々な視点から捉えることができるようになれば、自分の見方や感じ方を深めることができる。研究内容2では、自分の作品のよさや美しさを捉えさせることに焦点を当てる。

(1) 「生かす」段階における自分や仲間の作品の鑑賞のさせ方の工夫

「生かす」段階における鑑賞の活動の手順を工夫し、自分や仲間の作品のよさや美しさを感じた理由を伝え合わせることで、自分の作品のよさや美しさを捉えることができるようにする。

研究の実際

1 自分だからできる発想や構想を生み出す工夫

(1) 「生み出す」段階における題材との出合わせ方の工夫

子どもは、感じたことや想像したこと、見たり触れたりして捉えたことを基に表したいことを発想し、表すためにはどうすればよいか考え、構想していく。そこで、題材の導入の1時間を、題材との出合いの時間と捉え、出合わせ方の手順を次のようにすることで、発想や構想を生み出すことができるようにした。

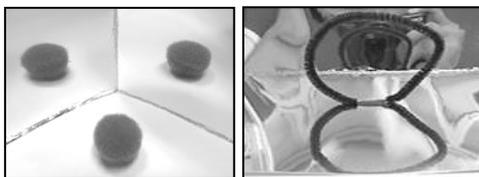
題材との出合わせ方の手順

- ① 参考作品を提示し、題材ならではの見方や考え方を働かせることができるような発問を行う。
- ② 題材ならではの表現を多面的・多角的な視点から試させ、題材の特徴を理解できるようにする。
- ③ 試しの作品を鑑賞させ、題材ならではの表現が多様にあることに気付くことができるようにする。
また、次時の発想や構想の手掛かりとなりそうな作品を紹介する。

授業の実際【第5学年 ミラクル！ミラステージ】

- ① 参考作品を写した写真を提示し、子どもがこれまでの生活経験等を基に、鏡を使った表現であることに気付くことができるような発問を行った。

（発問）触ることができるのはどれでしょう。どちらの写真も1つしかありません。



【参考作品を写した写真】

右の写真は、鏡をこうやって立てて、モールが下と後ろに映るようになっています。

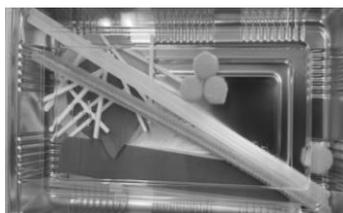


下のモールは鏡に映っているだけだから触ることができないね。

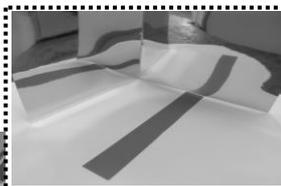
【題材ならではの見方や考え方を働かせている様子】

- ② ストローや、表と裏で色の違う色紙、半円の形の色紙、フェルトボール等、様々な形や色の材料を用意しておき、鏡への映し方を多面的・多角的な視点から試させた。試しの作品は、タブレット端末のカメラ機能で記録させておいた。
- ③ 試しの作品を「鏡だからできる表現」という視点で画像を見せ合いながら鑑賞させた。子どもたちの気づきを板書し、多様な表現ができたことを確認した。また、「レール」や「くものあし」等、次時以降の発想や構想につながる気づきについてもふれることで、自分なりの発想や構想を促した。

反対側の鏡にも、もう1本映っているよ。この2本で列車のレールになりそうだね。



【様々な形や色の材料】



【タブレット端末を使った鑑賞の様子】

長く切ってある色紙を鏡に対して垂直に置いたら、長さが2倍に見えるようになったよ。

○ 丸い形になる
○ 2本がも本にふえた
○ ストローの曲がる部分を使って八角形
○ ずっと続くレール
○ 1本で三角形
○ くものあし

【鑑賞をとおして得た気づき】

ただ試させるのではなく、その題材だからできる表現のおもしろさを実感させたいという試みで試させることで、題材のねらいに沿って多様に発見させることができた。また、仲間と作品を見せ合ったり、気づきを全体で共有したりすることで、自分だけでは気付くことができなかった表現方法についても確認することができ、発想や構想の手掛かりとなった。

(2) 「挑む」段階（製作途中）における自分や仲間の作品の鑑賞のさせ方の工夫

仲間の作品は、自分の発想や構想の手掛かりとなる。しかし、製作の手を止めて鑑賞させることは発想や構想の妨げとなる。そこで、授業のはじめに簡単な鑑賞の活動を行うことで、自分や仲間の作品を見つめさせ、発想や構想の手掛かりを得ることができるようにした。

授業の実際【第5学年 わたしのいい形】

授業前に、机の上に製作途中の作品をランダムに並べておき、授業開始と同時に自分の作品を探させた。その際、自分と仲間の作品を比較できるような発問をすることで、互いの作品を細部まで見つめることができるようにした。

(発問) 自分の作品と似ている作品や、全く違う作品を探してみよう。どんなところが似ている(違う)かな。

溝の形が僕の作品と似ているぞ。でも手触りは全然違う。

表面がなめらかだね。何刀で彫ったの？僕もなめらかな感じにしてみたいな。



この溝は、平刀で同じところを何回も彫ったらできたよ。

【自然な対話のなかで発想や構想の手掛かりを得る様子】

自分と仲間の作品を比較させ、似ているところや違うところを探させることは、作品を細部まで見ることにつながり、自然な対話をとおして、発想や構想の手掛かりを得る様子が見られた。発想や構想を苦手とする子どもも、仲間の作品を見て真似をするなかで「自分はまだ少し深く彫ってみよう」等、自分なりの表現にたどり着くことができた。

2 自分の作品のよさや美しさを捉えさせる工夫

(1) 「生かす」段階における自分や仲間の作品の鑑賞のさせ方の工夫

つくりだした作品について、子ども同士で鑑賞することで、思いがけない自分の作品のよさや美しさに気付くこともある。そこで、「生かす」段階においては、鑑賞の活動を次の手順で行い、互いの作品のよさや美しさを感じた理由を伝え合わせることで、自分の作品のよさや美しさを捉えることができるようにした。

